



震災復興と仲間の力を信じ、郷土の代表として全力で戦った2試合。

震

災の影響が未だに色濃く残るなかで開催された今大会。参加した全ての市町村の選手が、郷土の代表として、市民の皆さんに希望と元気を与えたいと、並々ならぬ決意を持って臨んだに違いない。

我が田村市チームは、市野球協会登録選手に公募した49人の応募から選りすぐられた25人。昨年の準優勝という成績を上回ろう、最後に球場のセンターポールに

市旗を掲げ、優勝旗を持ち帰るため、ひたむきに練習に打ち込んできた。

まさに実力伯仲。昨年同様、1点を争う緊迫した試合展開に思わず飲んで見守る応援団。初戦となる2回戦、対新地町戦は、先制を許しながらも、粘り強くサヨナラ勝ちを収めた。続く3回戦、対南相馬市戦も、先制を許す苦しい試合になった。田村市チームは終盤、連打で好機を作るも、あと1本が出ず、ホームを踏むことができなかった。

しかし、主将を中心に固いきずなを築きあげてきたこのチームは、苦境にあっても、ベンチのムードは明るく、仲間の力を信じて、最後の最後まであきらめない立派な戦いぶりを見せた。

「あと一歩及ばなかったものの、チームは全力を出し切った」：管野監督の試合後の言葉どおりである。

夢は絶対にあきらめない、田村市チームは、試合に敗れてなお、新しい一歩を歩み始めた。



田村市チームの戦績

- 2回戦…10月8日
対新地町 **2-1**
- 3回戦…10月9日
対南相馬市 **0-1**